



2025(令和7)年12月15日



馬主と秘書の20年を描く。



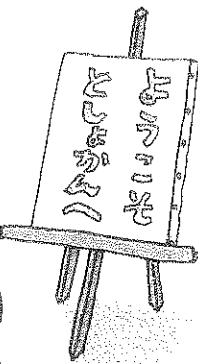
心に寄りそってくれるカウンセラーのような本。やさしい絵で癒されました。つらいとき、きっと助けてくれる本……読者からの感謝の声多数。



欲しかったのは、お金？ 称賛？ それとも、幸せ？



新着本、まだまだあります。ぜひ、読んでみてください！



ドラえもん に学ぶ 偉人のことば (斎藤孝、小学館)

〈この本について〉この本では、『ドラえもん』の名場面コマとともに偉人のことばが学べます。心が動いた偉人のことばを見つけたら、声に出して読んでみましょう。ことばには言葉という力ややどるといわれています。偉人がことばに込めた思いを声に出すことでからだにしみ込ませて、自分の力に変えましょう。

ザ・ロイヤルファミリー (早見和真、新潮文庫)

〈ストーリー〉元税理士の栗須栄治は、人材派遣会社のワンマン社長・山王耕造の秘書として働くことに。競馬に熱中し、〈ロイヤル〉の名を冠した馬の勝利を求める山王と共に有馬記念を目指し……。



セルフケアの道具箱 (伊藤絵美、晶文社)

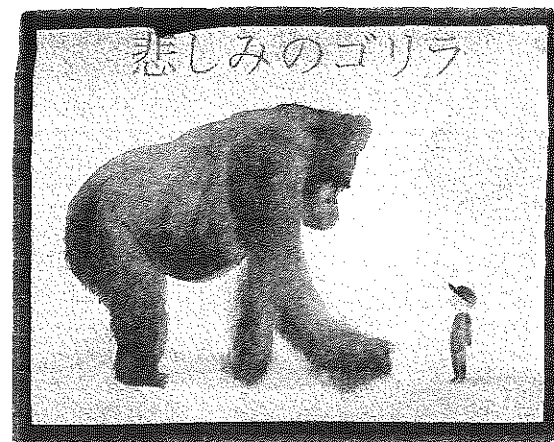
〈内容紹介〉ストレスがたまって苦しい、人間関係でしんどい、先行きが不安で眠れない……。こうしたメンタルの不調から回復する近道は、自分で自分を上手にケアすること。カウンセリング歴30年の経験を活かし、セルフケアの技法を惜しみなく伝授。

嘘つきジェンガ (辻村深月、文春文庫)

〈内容紹介〉優秀な長男に比べ苦戦している次男の中学受験。“特別な事前受験”があるとささやかれた母は……。『五年目の受験詐欺』など、だます者とだまされる者の切実な葛藤と後悔を描く、スリリングな3つの短篇集。

新・教場 (長岡弘樹、小学館文庫)

〈ストーリー〉T県警察学校の教官に、捜査一課の刑事指導官として名を上げていた風間公親が着任。野心と希望に燃える生徒たちは、千里眼のごとき風間の下で何人生き残れるか。



悲しみのゴリラ (ジャッキー・アズ・クレマー、角川文庫)

〈ストーリー〉ママを亡くした男の子。ゴリラが現れて、そと寄り添います。「ママはどこにいったの?」「どうしてママはひなの?」「いつになったらかなしくなくなるの?」男の子の問いかけに、ゴリラは一つひとつ、答えていきます。大切なひとを失う深い悲しみ。それを丸ごと、大きな腕で抱きしめる絵本です。

ベビーレボリューション (浅井健一・文、奈良美智・絵、角川文庫)

〈内容紹介〉ある日とつぜん、世界中の赤ちゃんたちが、はいはいして外へ出た! ビルの谷間もジャングルの奥地も、元気にはいはいしていく姿に、大人たちはびっくり。そして赤ちゃんたちは、ついに戦争地帯へ……。LOVE & PEACEなメッセージを、奈良美智さんの絵でまっすぐに!



17歳。

誰かの力を借りなきゃ、笑えなかった。



救われてんじゃねえよ (上村裕香、新潮文庫)

〈ストーリー〉主人公の沙智は、難病の母を介護しながら高校に通う17歳。「わたしは不幸自慢スカウターで言えば結構戦闘力高めなんだと思う」そんな彼女に舞い降りたのは、くだらない奇跡だった。

チョコレートを食べたことがないカカオ農園の子どもにきみはチョコレートをおげるか? (木下理仁、旬報社)

〈内容紹介〉世界の現実を、とくに自分とは大きく異なる境遇にある人のことを「自分ごと」として捉えるのは、とても難しい。でも、できるだけ想像力を働かせて、相手が感じているであろう気持ちを少しでも感じとってほしい。この本には、「もしも自分が……」という場面がたくさん出てくる。そこに自分がある気持ちになって読んでほしい。

パズルと天気 (伊坂幸太郎、PHP)

〈内容説明〉マッチングアプリでしか出会えない「名探偵」、天気のことばかり話す男……。伊坂ワールドの魅力が詰まった幸せな短編集。

他人のことばはパズルだと思うよりも、天気だと思ったほうがいい。

